

たわしに愛を込めて

紀の川市でたわし製造に携わる「北山正積商店」。
研磨した技術と、ユーザー目線のアイデアを駆使し、
たわしの新たな魅力を全国へ発信しています。



右上) 看板犬の福ちゃんにペット用たわしでブラッシング。気持ちよさそう！ 下) 北山正積さんと妻の正子さん、看板犬の福ちゃん(左)、桃ちゃん(右)

めざすはオンリーワン 独自ブランドを立ち上げ

真摯にたわしを作り続けて52年。棕櫚たわしの原材料である棕櫚を掴む手はごつごつとした、でも繊細な感覚が指の先にまで宿った職人の手です。

紀の川市貴志川町にある「株式会社北山正積商店」代表取締役の北山正積さんが、たわし製造の世界に足を踏み入れたのは17歳の時。1969年、父親が経営する工場を引き継ぐのと同時に、自身の名を冠した同商店も設立します。大手メーカーの下請けを中心に、たわしを製造してきました。しかし、オイルショックなどの影響により、大手メーカーの事業規模が縮小。受注量も減少し、たわし製造は衰退の危機に陥ります。そんな中でも、北山さんは地場産業であるたわし製造を守るべく、自身の納得がいくたわし作りを続けました。

時は流れて、2013年。長女のひとみさんと、次女の亜紀さんを迎え入れ、北山正積商店を法人化し、新たなスタートを切ります。「娘たちが一緒に頑張ると決意してくれたのも大きかった。新商品の開発やイベント出展など、自分の考えを元に活動したかった」

企画開発や販路拡大、情報発信を担当する娘たちに対して、北山さんと妻の正子さんは全国各地での百貨店やイベントでの対面販売に力を注ぎます。「たわしの魅力を直接伝えることができる貴重な機会。商品を通じて、お客さんとなりがりができるのもうれしいです」と正子さんは話します。

次世代に技術を継承し、 北山印のたわしを広めたい

もう一つの主力商品であるパームたわしは、原料のヤシの実が豊富に採れるスリランカで生産されています。北山さんはかつてスリランカで職人たちに製造技術を伝えたことがあり、現地では有名な存在です。2019年には娘たちと一緒に同国を訪問し、交流を深めました。

「スリランカの職人さんの丁寧な仕事ぶりは本当に尊敬します。将来的にはパームたわしのシリーズ化が目標。現地の皆さんと協力し、たわし文化の発展に寄与したい」と次女の亜紀さんは話します。技術継承を受けたのは同国の職人たちだけではありません。長女のひとみさんは北山さんから製造技術を教わり、たわし職人としての道を歩み始めています。

「父の代でたわし製造が途絶えるのはもったいない。妹と相談して、父の技術を継承することを決めました。若い人たちにもたわしの良さを伝えたい」と、ひとみさんは決意を新たにします。「これから先もたくさんの方々に、私たちが作ったたわしを広めていきたい。気軽に実物を見に来てほしい」と北山さんは胸を張ります。たわしといえば、昔の道具という印象がありますが、天然素材で環境に優しく、心豊か

と当時の心情を明かします。

法人化を機に、北山さんは娘たちと共にブランド構築に着手。たわしをイメージしたロゴを作成し、ホームページを開発します。たわしの魅力やこだわりをたくさんの人々に伝えたい——そんな思いを大切に、家族一丸となって新たな北山正積商店を作り上げました。

「こんなたわしがほしい！」 暮らしでひらめく商品企画

北山正積商店のたわしは、一つひとつ丁寧に手作りしています。原材料である天然素材の棕櫚、サイザル、パームの繊維を、用途に応じて組み合わせ。長年の経験と感覚に裏打ちされた技術で、人々が抱く「たわしは硬い」というイメージを払拭するたわし作りを信条としています。

「こだわりは繊維の密度や量、巻き方。硬く巻き過ぎるとバリバリになって柔軟性がなくなり、逆に密度が薄いと洗浄力が劣る。毛がしなる感じがベストです」と北山さんは力説します。

キッチン用では、主力商品の棕櫚たわしの他に、水筒やホーロー鍋を洗うのに適した商品もラインナップ。身体を洗うためのボディ用だけでも6種類あるというこだわりようです。なかでもペット用たわしは、北山さんが飼う犬を棕櫚たわしでマッサージしてあげると気持ちよさそうにしていたことから商品化しました。それがテレビ番組などメディアで紹介され、SNSでも拡散されていきます。全国から注文が舞い込み、一躍、看板商品になりました。

「私たち姉妹もたわしは使ったことがなかった。でも家事をしていて『こんなたわしがあれば便利かな』と思ったものを父に作ってもらい、それを商品化することもあります」と長女のひとみさんは話します。

に暮らす現代のライフスタイルにこそ最適です。使えば良さがわかる、北山正積商店のたわし。ぜひ一度、手に取ってみてはいかがでしょうか。同商店のたわしはホームページからの注文、もしくは同商店工場で購入可。「道の駅四季の郷公園」内売店でも販売しています。



棕櫚たわし

SHURO

「毛が硬く食器が傷つくのでは？」という印象をつくがえしてくれる「棕櫚たわし」。適度に柔らかくて食器や野菜はもちろん、衣料品にも安心して使えます。用途、サイズに応じて豊富にラインナップ

ペット用たわし

PET

大好きな北山さんが開発した「ペット用たわし」は同商店の看板商品。静電気が起こりにくく、ブラッシングにより血行を促進。柔らかいサイザル麻を使用した猫用と、棕櫚を使った犬用の2種類があります



パームたわし

PARM

硬くて強い繊維を使用し、頑固な汚れもガシガシこすって落とすことができる「パームたわし」。アウトドアでの後片付けにも最適

ボディたわし

BODY

ボディケア用のたわしは女性に人気。白い部分のサイザルは肘、膝、ふくらはぎに。棕櫚はかかとや足など、2種類の繊維の違いで使い分けできます。プレゼントにいかが？



INFORMATION

株式会社北山正積商店
紀の川市貴志川町丸栖517
☎0736-64-3943
kitayamamasatsumu.com



PROCESS | 棕櫚たわしの製造工程

北山正積商店のたわしは毛の量が多いため、一般的なたわし製造に比べて高いレベルの技術が求められます。



4 仕上げ

腕の力でたわしの形状に折り曲げ、細部を整えて完成です



3 刈り込み

棒状に巻かれたものを刈り込み機に入れて、繊維を整えます



2 巻き工程

繊維を直角にそろえて巻き、最後にしっかりと巻き込みます



1 断裁

棕櫚を束ねて断裁機にセットし、たわし一つずつを断裁します